

### ●診療科の特色

1. 常勤病理診断医:2名、非常勤病理診断医2名、常勤精度管理医師:1名

常勤臨床検査技師:26名 非常勤臨床検査技師:8名 検査助手:2名で検査業務を運営している。

2. 夜間帯は当直体制として1名の臨床検査技師が緊急検査を実施、新型コロナ検査(院内PCR)に対応すべく、さらに1名のバックアップ体制を組んでいる。

休日日勤帯は2名で緊急検査及び院内PCRを実施。

3. 日本臓器移植ネットワークより移植検査センター業務を輸血管理室で実施。

(R2年度実績:脳死心停止ドナー検査7件、新規献腎移植登録者検査28件)

4. 社団法人日本臨床衛生検査技師会認定の精度保証認証施設に登録中。
5. チーム医療に積極的に参加。(外来採血・NST・ICT・心臓カテーテル検査・がんゲノム検査)

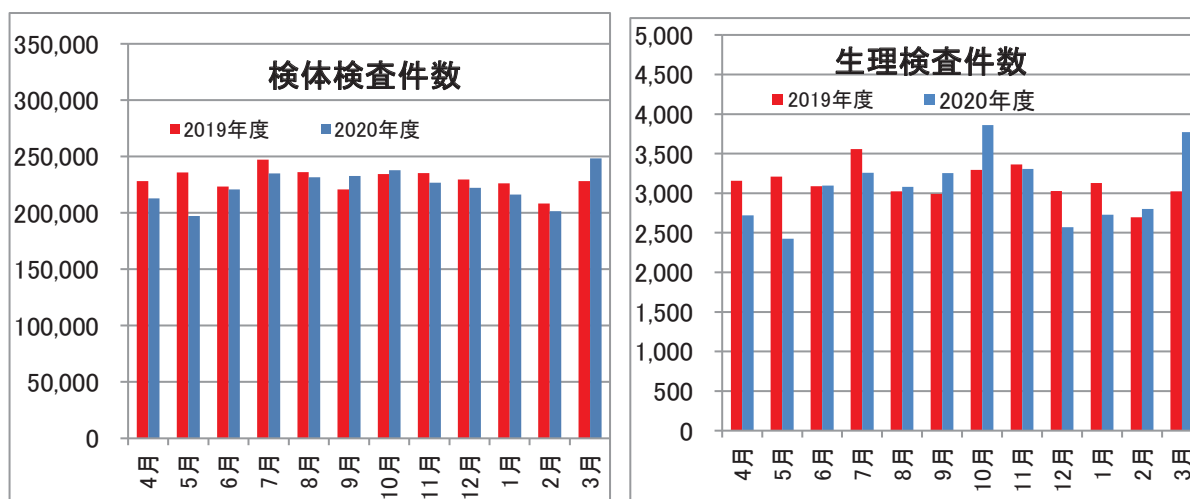
### ●教育・研修活動

1. 毎月1回内科症例のCPCを実施(1~2症例)。
2. 臨床検査科内で概ね月1回の勉強会の実施。
3. 岡山理科大学4回生の臨地実習5名・5週間の受け入れ。
4. 2年次の臨床研修医に対して超音波・病理細胞診・細菌検査の実習実施。
5. ISO 15189 認定取得に向け鋭意活動中。

### ●2020年度の主な臨床検査科統計の概要

2020年度の検査件数は2019年度と比較し、新型コロナの影響により検体検査で前年比97%、生理検査で98%と減少していた。増加している検査として、微生物検査が104.4%、細胞診検査が109.8%、呼吸機能検査が104.1%と増加しているが、それ以外はすべて減少している。特に心電図検査は86.1%と減少幅が一番大きかった。

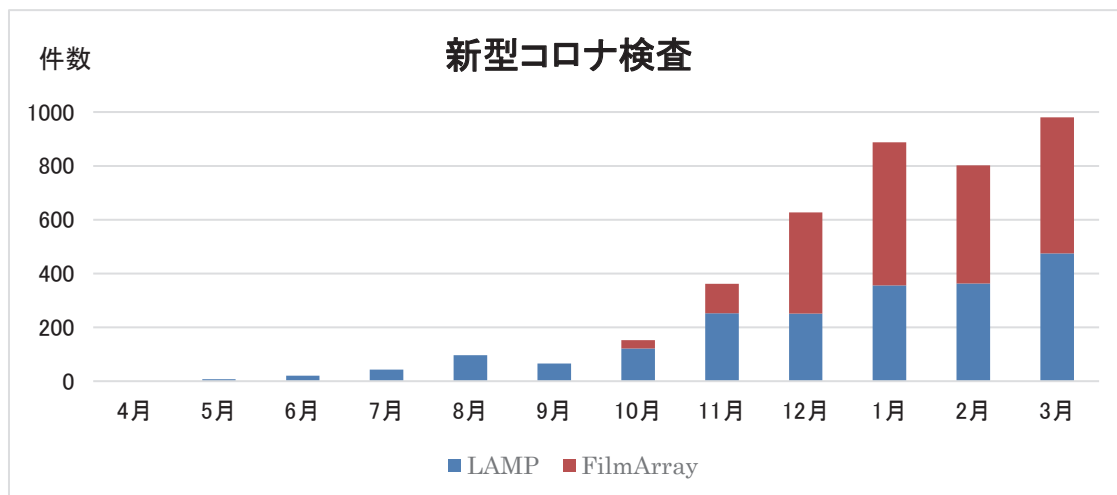
新型コロナの蔓延状況に応じ、入院患者数、外来患者数の絞り込みを行なった結果が如実に現れている。生理検査部門は特にその影響を受けている。



2020年度の経費としては、2019年度と比較して大幅に増加している。

修繕費は210万円ほど減少しているが、点検や年間保守費が増加し、試薬代は前年比で110%増加している。新型コロナの検査試薬を大量に購入していることの影響とみられる。

	2019年度	2020年度
検査修繕費	¥8,588,470	¥6,429,195
検査点検	¥0	¥3,755,147
年間保守	¥9,035,316	¥12,072,141
試薬代(検査科)	¥269,074,755	¥298,206,245
診療材料費(検査科)	¥37,953,268	¥38,570,788
合計	¥324,651,809	¥359,033,516



● 2020年度に検査科が参加した主な外部精度管理

1. 日本臨床衛生検査技師会主催精度管理調査

実施時期:6月初旬

結果:11月下旬、

目的:他の精度管理では実施できない細菌、病理、生理検査などの精度管理

2. 日本医師会主催精度管理調査

実施時期:9月初旬

結果:2月下旬

目的:項目は生化学、免疫、血液、一般検査の精度管理調査

3. 日本病理精度保証機構外部精度評価

実施時期:前期7月中旬、後期10月中旬

目的:染色やバーチャルスライドの判定で精度維持・向上を行う精度管理

4. 日本組織適合性学会主催 HLA-QC ワークショップ

実施時期:4月中旬

結果:8月

目的:HLA 検査の精度維持

5. 岡山県臨床検査技師会主催クロスチェックサーベイ

実施時期:毎月初旬

結果:毎月中旬

目的:検査値の施設間差を毎月モニターすることで、異常時にはいち早い対処が可能

## ● 研究業績

### 1. 学会・研究会

- (1) 第 21 回日本検査血液学会  
MRIで骨髄に高輝度領域を認めた慢性骨髄性白血病(CML)の小児例  
永田啓代 2020年7月12日
- (2) 第 74 回 国立病院総合医学会  
当院における多発性骨髄腫、悪性リンパ腫のプレリキサホル使用による自家末梢血幹細胞採取数の変化について  
中川智博 2020年10月17日
- (3) 第 52 回日本医療検査科学会  
D ダイマー/FDP 比の分布と D ダイマー値が FDP 値を上回る頻度について  
永田啓代 2020年10月31日
- (4) 第 74 回国立病院総合医学会  
ISO 15189 認定をコンサルティング契約せず取得するデメリットとメリット  
永田啓代 2020年11月14日
- (5) 日本超音波医学会第 93 回学術集会  
巨大な低異型度虫垂粘液性腫瘍の一例  
黒木知佳 2020年12月1日
- (6) 第 45 回日本超音波検査学会学術集会  
乏血性を呈した淡明型腎細胞癌の一例  
黒木知佳 2020年12月19日